

ものづくり産業振興の新たな展開方向の検討における論点

1 技術力の向上

- 経営資源に限られる中小企業の技術力向上には、**企業間補完・連携**の取組が必要ではないか。
- 道内大学・試験研究機関が持つ技術シーズの活用、あるいは中小企業の技術課題の解決のため、**産学官連携の一層の促進**が必要ではないか。
- 企業の技術開発の積極的な取組を促すため、**国・道等の支援施策を有効に活用**すべきではないか。
- 企業の独自の取組や外部の人材育成機関と連携した取組により、**技術者の育成・確保**を一層図っていく必要があるのではないか。

2 経営基盤の強靱化

- **生産の効率化と高品質化の両立（QCD対応力の強化）**をどのように図っていくか。
- 取引企業に対し、そのニーズを捉えた**積極的な企画提案**を行い、仕事を創出・拡大していくべきではないか。
また、こうした**組織文化の定着**に向け、行政としての役割は何か。
- 経営者が高齢化している中、**事業継承の円滑化**を図っていくべきではないか。

3 市場の開拓・創造

- 北海道が持つ**ものづくりの魅力**を国内外に一層発信すべきではないか。
その際に、**外国人の視点**を入れるべきではないか。
(家具、ファッション、皮革製品、伝統工芸品等)
- 人口減少による国内市場の縮小が見込まれる中、**海外市場の獲得**を視野に入れていくべきではないか。
- 販路拡大のため、**ビジネスマッチング**や**展示会への出展**など多様な**プロモーション**の手立てを確保すべきではないか。

4 人材の育成・確保

- 生産年齢人口が減少しつつある中、ものづくり現場においても**女性や若者等の参加**を促進していくべきではないか。
- 技術者が高齢化している中、**技術伝承**の円滑化を図っていくべきではないか。
- **若年技術者の確保**や**在職者の技術力・技能力向上**のため、**企業と大学、工業高等専門学校、高等技術専門学院等の人材育成機関が連携を強化**していくべきではないか。
- 次世代のものづくり産業を支える人材の育成・確保に向けて、**小中学生や高校生等**に対しても**ものづくりの魅力を一層発信**していくべきではないか。

5 産業間連携

- 本道に優位性がある**農林水産業との連携強化**により、**地域特性を踏まえたものづくり産業の振興**が図られるのではないかと。
 - ・農林水産業の生産効率を高める分野への参入
 - ・農林水産業従事者の高齢化に対応した省力化を進める分野への参入
 - ・素材を活かした食品加工の技術力向上等の分野への参入 など
- **環境・エネルギー分野等における社会的課題解決の視点**を持つことにより、**需要創出・産業育成**が図られるのではないかと。

6 企業の取組を支える基盤づくり

- 経営環境が多様化し、業種の垣根を超えた取組も求められる中、**業界団体の横の連携を強め、発進力を強化**していく必要があるのではないかと。
- 次世代のものづくり産業を支える人材の効果的育成を図っていくため、**大学や高専、技専など人材育成機関の相互交流、連携を強める**必要があるのではないかと。
- 道内各地域の**産業支援機関（公設試、経営指導機関など）**をどう評価し、また、どのように活用すべきか。

7 「新たな展開方向」を進めるにあたって

- 展開方向を実践するためには、現状の分析や課題の抽出にとどまらず、**オール北海道で、ものづくり関係者が認識を共有し、テーマを掲げ運動論として展開**していくべきではないかと。